

関係人口を巻き込んだ地域づくり活動にみる担い手のモチベーション構造

16E0190050 栗林悠莉  
(指導教員：新田将之助教)

1. はじめに

地方から都市への過度な人口流入の結果、2050年には三大都市圏の人口が総人口の56.7%に達することが推計されている。この流れは、地方の過疎・高齢化を助長するとともに、地域づくり（地域の問題解決に資する活動）の担い手不足という深刻な問題を引き起こしている。こうした状況を受けて、地域づくり活動の担い手を地域外から補う方法論とともに、「関係人口」という概念が注目されるようになった。総務省<sup>2)</sup>によると、関係人口とは「移住した『定住人口』でもなく、観光に来た『交流人口』でもない、特定の地域と継続的に多様に関わる人々」とされ、関係人口を巻き込んだ地域づくり活動の促進が求められている。これには、関係人口の参画要因を明らかにすることが重要であるが、先行研究<sup>1)2)</sup>では分析されていない。

そこで本研究では、地域づくり活動に参加する関係人口及び地域住民のモチベーション構造の分析・評価手法について、有機的統合理論を援用したモチベーション構造図の構築ならびに、RAI指標に基づいた分析を提案し、関係人口を巻き込んだ地域づくり活動における担い手のモチベーション特性を考察した。

2. 方法

2-1 調査の概要

本研究では、栃木県日光市において、地域振興を目指した公共空間の利活用（イベントの企画・運営・広報など）を行う市民団体Nに所属するメンバー6名を対象としたインタビュー調査を実施した。調査では、事前に作成した14個のモチベーション項目（表1）から、モチベーションとなる項目を5つ選択してもらった後、選好順位を決めてもらい、順位が高い項目から順に、モチベーションとなる理由を聞いた。得られた回答を基に、有機的統合理論を援用したモチベーション構造図を構築したうえで、RAI指標に基づき、自律性（自己決定性）の程度を表層（外部からの評価）と深層（本人の評価）に分けて分析した。

表 1 モチベーション項目

| No. | 設定項目（モチベーション要因）           | 自律性の調整段階 |
|-----|---------------------------|----------|
| A   | 金銭的報酬                     | 外的調整     |
| B   | 時間的余裕                     |          |
| C   | 地域の歴史や文化を知る機会             | 取り入れ的調整  |
| D   | 所属団体内でのコミュニケーションの機会       |          |
| E   | 所属団体内での評価                 |          |
| F   | 地域の住民からの評価                |          |
| G   | 所属団体の活動内容を地域の住民が理解してくれている | 同一化的調整   |
| H   | 地域の住民と一緒に活動をする機会          |          |
| I   | 地域の住民とのコミュニケーションの機会       |          |
| J   | 所属団体内で目標や将来ビジョンが共有されている   | 統合的調整    |
| K   | 個人の技術（能力）に対する地域の住民からの信頼   |          |
| L   | 所属団体内における自分の裁量            |          |
| M   | 個人の能力を発揮する機会              | 内発的調整    |
| N   | 地域のための挑戦的な課題              |          |

2-2 分析手法

有機的統合理論は、自己決定理論<sup>3)</sup>の6つの下位理論の1つで、活動に対する価値に着目し、『外発的動機づけ』と『内発的動機づけ』を連続線上に捉え、自律性の程度により5つの段階（①外的調整、②取り入れ的調整、③同一化的調整、④統合的調整、⑤内発的調整）に区分した理論である。本研究では、各調整段階に応じて、指標となるワードを設定した。

RAI指標<sup>4)</sup>は、自律性の程度を数値化する指標である。本研究では、各調整段階に応じて、外的調整(-2)、取り入れ的調整(-1)、同一化的調整(+1)、統合的調整(+2)、内発的調整(+3)（0を除く）として重みづけし、被験者が選択した項目のうち、選好順位の高いものから順に、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点として、以下の算出式を用いて算出した。調整段階とRAI値の関係については、図1に示す。

$$RAI = \sum_i^5 (6 - i) \cdot Wi(a_k)$$

ここで、

$Wi(a_k)$ ：第*i*位の選択項目( $a_k$ )に係るウェイト

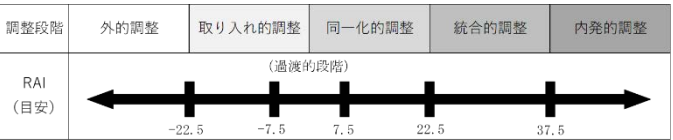


図 1 自律性の調整段階とRAI値

キーワード：関係人口、地域づくり活動、モチベーション構造、有機的統合理論、RAI指標

- $Wi(a_1) = -3$  : 非動機づけ( $a_1$ )に係る項目を選択
- $Wi(a_2) = -2$  : 外的調整( $a_2$ )に係る項目を選択
- $Wi(a_3) = -1$  : 取り入的調整( $a_3$ )に係る項目を選択
- $Wi(a_4) = 1$  : 同一化的調整( $a_4$ )に係る項目を選択
- $Wi(a_5) = 2$  : 統合的( $a_5$ )に係る項目を選択
- $Wi(a_6) = 3$  : 内発的調整( $a_6$ )に係る項目を選択

3. 結果と考察

表層と深層における RAI 値と該当する調整段階を整理した結果を表 2 に示す。自律性の程度を評価すると、表層と深層における調整段階が異なっている被験者がいた。また、RAI 値による自律性の評価に相違は認められなかった場合でも、個々の選択項目において調整段階が異なる項目が存在した。このことから、表層と深層における自律性の程度の評価は、個々により程度の差はあるが、異なっていることが明らかとなり、単純集計した結果に対し、外部からの評価に基づいた結論の導入は必ずしも正しいとはいえず、深層における分析・評価の重要性が示唆された。

深層における RAI 値をみると、6 人中 5 人が 20 前後の値を示し、同一化的調整の中でも統合的調整に近いことから、活動そのものではなく、活動によって得られる関係性や機会に価値を見い出していることが示唆された。一方で、深層において RAI 値がマイナスの値となった被験者 No.4 に着目してみると、友達同士のつながりが 1 番大きいと回答したことから、モチベーションが団体メンバーとの関係に依存していることが推察された。

最も選択された項目の選択理由及び選好順位を比較すると、全ての被験者に相違がみられ、深層における自律性の評価においても、2 つ以上の調整段階に分かれていた。このことから、「何に価値を感じるのか

(活動自体や関係性等)」、「価値と行動をどのように結びつけるか」という動機づけまでのプロセスが、人によって異なることが示唆された。また、必ずしも全員が活動に価値を感じているとはいえず、参画要因も異なるため、一律のモチベーション向上手法は適応できないことが示唆された。モチベーションの向上は、1 人 1 人に適した手法で行うべきであるといえる。

4. まとめ

本研究では、地域づくり活動の担い手 6 名を対象に、有機的統合理論を援用したモチベーション構造図の構築ならびに、RAI 指標に基づいたモチベーション構造の分析を試み、地域づくり活動の担い手のモチベーション特性を考察した結果、以下の知見が得られた。

- ① 地域づくり活動に対するモチベーションを表層と深層とで評価した結果、両者の RAI 値に相違がみられたことから、参加者個々のモチベーションを理解するには、深層における分析・評価も重要であることがいえる。
- ② 深層において自律性の程度 (RAI 値) を評価すると、活動そのものよりも、活動を通して得られる関係性や機会に価値を見い出していることが示された。また、団体メンバーとの関係に依存している人がいることが分かった。
- ③ RAI 値とモチベーション項目の選好順位に相違がみられたことから、「何に価値を感じるのか」、「価値と行動をどのように結びつけるか」という動機づけまでのプロセスが、人によって異なることが示された。

以上より、本手法を用いることで、個々で異なる動機づけの多様性を評価することができた。

今後の課題として、本手法を他地域へも適用し、当該手法の有効性の更なる検証・改善を図る必要がある。

参考文献

1) 安藤慎悟・ゴルブチェンコスタニスラワ・久米川幹太・谷口守 中央省庁による関係人口創出施策の動向 都市計画報告集 No.21 2022  
2) 菅野貴文・奥村蒼・谷口守 大都市圏発問型関係人口の目的地構成とその展開 都市計画報告集 No.19 2022  
3) 上淵寿・大芦治編著：新動機づけ研究の最前線 北大路書房 2019  
4) Grolnick, W. S., & Ryan, R. M.: Autonomy in children's learning : An experimental and individual difference investigation, Journal of Personality and Social Psychology, Vol.59, 1987

表 2 表層と深層における RAI 値と評価

| 被験者<br>No. | 表層  |        | 深層  |        |
|------------|-----|--------|-----|--------|
|            | RAI | 調整段階   | RAI | 調整段階   |
| No.1       | 18  | 同一化的調整 | 19  | 同一化的調整 |
| No.2       | 23  | 統合的調整  | 25  | 統合的調整  |
| No.3       | 3   | 過渡的段階  | 20  | 同一化的調整 |
| No.4       | 9   | 同一化的調整 | -9  | 取り入的調整 |
| No.5       | 10  | 同一化的調整 | 20  | 同一化的調整 |
| No.6       | 30  | 統合的調整  | 22  | 同一化的調整 |

キーワード：関係人口、地域づくり活動、モチベーション構造、有機的統合理論、RAI 指標